

大学、清泉大学、上智大学で学んでいた。家事一般はシスターパトリア。

院長は元気溍溍のシスターメリーキャサリン。明るいリーダーシップのもと、みんな実に「生き生き」と修道生活に励んでいた。シスターメリーキャサリン・シスタードロレス・私の三人は上智大学へ揃って通った。溜池で乗り換え、途中、マンホールから吹き上げる風にハビットの裾を押さえるのに一苦勞。朝、「ではね。」と別れた三人がお昼には揃って食堂へ、毎日、注文はカレーライス。自然人類学レポート作成で上野動物園に行った時、ふと気がつくとも猿よりも私たちの方が眺められていた。

この年、歌舞伎座で「ガラシア夫人」が名優中村歌右衛門によって上演され、みんな大喜びで観劇。始まる前に舞台の袖からホイベルス神父様のご挨拶なされたことは嬉しく誇らしいことでした。

12月2日母が急逝、その夜、院長様はシスターアグネスを介添えに私を神戸に帰らせてくださった。間もなく虫垂炎で聖母病院へ入院、手術。みんな本当にそっとしておいてくださった。あの優しさ、温かさに改めて心からの感謝の想いを捧げます。上智大学で学んだ仲間は、みんな天国へ旅立っていかれた。嗚呼、上智の霊よみ国へ導きたまえ。

(初誓願 1963)

### シスターメリー グロリア 平井

SSNDシスターとの最初の出会いは来日直後松ヶ崎



### シスターメリーアニタ 高木

○叔母が幼きイエス会のシスターであったこと。

○他修道会のシスター方と共にいる時 SSND であることよろこび

(初誓願 1963) (文責 Sr. ピートラ)



### シスターメリー キャーレン 立花

1963年4月1日、この日、新しい修道服に変わった。麗らかな春の日、私たち十一人は神の恵みのもと念願の初誓願を立てた。私とシスターヴェロニカは東京麻布修道院へ配属された。麻布修道院は「学びの館」であった。その年度、学生シスターの数は七人、それぞれ聖心



メリノール修道院に滞在しておられたときである。メリノールのシスターに招かれ私たち8人がお訪ねした。荘厳な修道服の4人のシスターはにこやかに迎えてくださった。シスターは私たちを楽しくもてなしてくださったのが忘れられない。シスター方は個性豊かで生き生きと親しみやすく深い印象を受けた。

#### 修道生活の初期

Sr メリージャン（修練長）の言葉  
或る時課題が与えられ迷っていると“Use your head”とお声が飛ぶ！ノビスの間違いで大きなことも小さなことも“Use your head”と。叱られていてもユーモアがあって笑ってしまう。

未熟なノビスに責任ある判断、決定行動を促し自主性を育てておられたのである。

#### 修道生活を振り返る

第二ヴァチカン公会議後の刷新と変化と進化の時代で教会も修道会も大きく刷新される。

ND三校の創立と発展と教育の基礎が築かれた。シスターたちは総力をあげて与えられた場所で懸命に教育に携わった。修道院ではアメリカ人のシスターとともに日米異文化共同体である。互いに助け合いながら痛みがあっても互いに豊かにされる。シスターたちはユーモアのセンスが豊かで楽しい笑いが生活の潤滑油となる。SSNDは人を人間として本質を考慮され尊重し大切にされる。

派遣されたシスターとともに生きた全てのことのなかに創立者のカリスマは言葉でなく生活をとうして育てられたのである。

神の慈しみによってSSNDに召されたことは計り知れない神秘である。多くのシスターに育てら

れ導かれ、今私がここにあるのは奇跡である。

神の愛とすべてのシスターに深く感謝しここからの祈りを捧げます。

(初誓願 1963)

#### シスターメリー ジャネット 豊里

観想的修道会の趣きがあり、又幅広い多様な使徒職の場もあって私の奉献生活を可能にする場がここにあると思った。



何が私をSSNDとして生き生きさせたか。  
一人のSSNDのシスターが働いている所には世界のシスターが一緒そこにいる。  
と言われたのを聞いたとき。

SSNDであることを喜びに思ったのはどんな時でしたか。

SSNDの総会の奉仕者としてローマ本部に派遣され世界のSSNDの指導者や奉仕者と出会い、共に働いたこと。

創立者の国、ドイツの本部やマザーテレジアが創立した最初の修道院や学校のあるノインブルグを訪ねることができたこと。

創立者マザーテレサの墓前に詣でたこと。

(初誓願 1963)

#### シスターメリーナタリ 斉藤

私は多くのシスターたちから支えられてきました。

三重県四日市市のカトリック教会の主任司祭、ムニ神父様がノートルダム教育修道女会を紹介してくださいました。

寄宿舎の生徒の食事作り、修道院の台所、唐崎黙想の家での食事作りが主な使徒職でした。

修道生活を通してシスターたちから、多くのことを学びました。多くの方々が私を支えてくださいました。感謝でいっぱいです。

(初誓願 1963) (文責 Sr. ピートラ)



#### シスターマウラ 遠藤

ノートルダム女学院図書室に長年勤務。ある生徒が「図書室に来てシスターの笑顔に出会うと、私は学校が嫌いだったのに登校拒否にならずに卒業まで頑張れた」と話してくれた時には、SSNDの一員としてこの使徒職を頂いたことに深く感謝した。

(初誓願 1963) (文責 Sr. ピートラ)



#### シスターメリー イヴァンジェラ今村

修道女会に入会したいと



希望していた私は、1961年冬、ノートルダム教育修道女会を訪問しました。そして、志願者達の部屋で一日を過ごしました。そこで、シスター達と志願者達が、前年に起こった伊勢湾台風で被害を受けた人々を訪問し、助けていると言う話を聞きました。私は、ノートルダムと言えば、子女のために良い教育をする学校を経営していると言う認識しかなかったので、台風による被害者を助ける活動をしていると知り、感動しました。そして、二ヶ月後、入会しました。

その二十年後、日本地区は、シスター達をネパールへ派遣することに決めました。私はネパール行きの希望を出し、1983年、他の三人と共にネパールに派遣されました。

約二年後、電気も電話もなく、空き家ばかりの村、バンディプールで、シスターミリアムと私は、貧しい子供たちの教育に当たることになりました。

私達が働き始めたころのゴースト・タウンは、今は美しい観光村になっています。電気や電話があるのはもちろん、人々はコンピューターや、携帯電話を使っています。又、新しい家が次々と建設されています。それでも、よい仕事がなく、建設現場の土や、レンガ運び、又、人の荷物を担いだりして生活を支えている人々がいます。そういう人達は貧しい生活を強いられています。

そういう、貧しい人々の子女のための教育を続けていく時、又、助けの必要な人々に手を差し伸べて行く時、私がSSNDを初めて訪問した時に知ったマザーテレジアのカリスマは、ここで、私達の中でも生き続けていると思います。

(初誓願 1963)

## シスターメリー カニジア 兵頭



小学生のころから、毎月  
心待ちにしていたリーダーズ

ダイジェストに、『忘れ得ぬ人々』、と言う投稿がありました。そうです。忘れ得ぬ人・出来事が影響する個人の歴史は興味深いものでした。

嘗ては『誓願のカテキズム』の本一冊を難なく丸暗誦（初項から最終項から）した私の記憶力も大分衰えてきましたが、まだ残っているものもあります。

数年前の夏の夕方、訪セントルイス中の姉妹と庭の手入れをした時です。アスファルトの割れ目から芽を出した葉鶏頭が、熱射と湯水で大きくもなれず、何とか生き延びていました。『お前さんは此処に出てくるんじゃないよ』と抜きかけた私に『シスター抜かないで！その子はそれなりに一生懸命咲こうとしているのよ』と。ガーン！と頭を打たれました。小さいもの、隅に押しやられたもの、見栄えの良くないものに心を寄せられるその生き方に『脱帽』でした。一生を共同体員のために下で支えて来られた方の生き方。演説でも書き物でもなく、生き様そのもの。どなたでしょう？忘れ得ぬ体験？

人間魚雷をご存知でしょう。広島・呉沖の江田島にある旧海兵隊の幼年学校で実物が展示されています。敗戦末期、1メートルそこそこの長さの魚雷の中に、召集された中学生が体を折り曲げて入り、頭上の蓋を閉められて海中をまっしぐら、敵艦目掛けて自爆するのです。この、人間魚雷に乗ったかとも思われる体験は、地区のオフィスで小間使いをしていた頃のことです。或る週末の午後遅く、沖縄に出張中の役員から電話がきました。『明朝の祈りに使う重要なテープ

を忘れてきたので、夜行の宅急便で何としてでも届けてほしい』と。宅配会社に電話をしたら『〇〇時が空港行きの最終便です』と。モノを探し、書類に記入し、北山通りに飛び出して運良く捕まえたタクシーに、『〇〇時までには十条の宅急便に行ってください』と。ドライバー曰く。『お客さん、何を言っているんですか？京都の北の端から南の十条迄!? 週末のラッシュアワーですよ。無茶です!』『どうしても届けなければならぬんです！何かあった時には会が全責任を取りますからお願いします』と。まさに、人間魚雷に乗り込んだ中学生の心理？信号のない裏道をスピード違反で走り、着いた宅急便の本社では、トラックが車庫から出て車道脇でエンジン吹かして待ちました。ドライバーに手渡して、フウッ！魚雷の自爆は不発に終わりました。きっと、会の進行は成功だったのでしょう。Ende gut, alles gut! 終わりよければ全て善。非常識承知・命懸けで会・人のために尽くした稀少の思い出です。今も、北山通りでタクシーに乗ると当時の恐怖が戻ってきます。

(初誓願 1963)

## シスターメリージェーン 田中



ノートルダム女学院中学校  
高等学校で宗教の教師として奉職した。若い生徒たちと、自分より弱い人たちや障害のある人たちをサポートすることを学び合い（例、手話、車いす介助など）充実した日々を送ったことを神に感謝している。

(初誓願 1965) (文責 Sr. ピートラ)

## シスターメリーモニカ 桂川



私は、入会の時には、どんな使徒職をさせていただくか等、何も考えず、ただただ人様のお役に立つことが出来れば何でもさせていただきたいということのみ考えていました。

志願期には、床のワックス塗り、機械に振り廻わされながら床磨き、壁のペンキ塗り、ストーブの薪割り、そして、修練長特製のおいしいドーナツ作り等、少々びっくりしましたが、とても楽しい仕事でした。

初誓願後には、幼児教育の使徒職に就き、日毎に成長して行く園児の姿を見て幼児教育の大切さと、よろこびを感じていました。ある日、母からの手紙の中に「人様の子どもさんを預かって寝ても忘れることがあってはならんよ」という忠告のことばがあり、事のある毎にこの言葉を思い出し励んで来ました。

その後は、教会や老人施設、そして黙想の家の使徒職となりましたが、幼児、社会人、高齢者の方々との関わりの中で人の一生の歩みに触れ、実感し、共感しながら私自身を成長させていただきました。

奉獻生活は、みことばを糧として祈りと共同生活に支えられ、関わる全ての人々と共に、神様に近づいて行く旅だと思い、イエス様に呼ばれた恵みを感謝している日々です。

(初誓願 1965)

## シスターメリー ロレッタ 村上



私が大学修道院に居た昔のことです。来てまもなく、典礼当番になり、聖歌選びをしましたが、思うように進みません。自信がないままプログラムを提出しました。ミサはその聖歌通りに行われました。そしてミサも終り、聖堂を出た時、後ろからSユージニアに呼ばれ、シスターは微笑みながら来られて、「ミサの歌、みんなよかったですよ。」と言われました。私はびっくりしました。元学長のSユージニアから呼ばれて、聖歌がよかったということ。私はとても嬉しくなり平安な気持ちになりました。シスターの優しい心遣いで、力づけられました。あの時の状況はまだ覚えています。感謝のうちに。

(初誓願 1965)